

令和3年度
第7回留萌市公共施設整備検討会議
議事概要

○日時／令和4年3月30日（金）15:00～16:30

○場所／留萌市役所3階 3・4号会議室

○出席者／委員 炭谷座長、向井副座長、大石委員、中野委員、笠井委員、坂本委員、堀口委員、高橋委員、大和委員、遠藤委員、串橋委員

※順不同

オブザーバー 留萌振興局地域創生部：榎波部長

留萌市都市環境部：安田課長、市教育委員会：伯谷課長

事務局 留萌市地域振興部政策調整課：海野課長、菊池係長、高橋主任

アドバイザー 北海道大学大学院工学研究院：小篠准教授

運営支援 (株)ドーコン 佐竹、佐藤

1. 開会

2. 座長挨拶

－炭谷座長よりあいさつ。

3. これまでの会議の振り返り

(1)留萌市公共施設整備検討会議開催概要【資料1】

－ドーコンより留萌市公共施設整備検討会議開催概要【資料1】について説明。

4. 検討会議の報告書について

(1)公共施設整備検討会議からの報告書（意見）案【資料2-1】

(2)新旧対比表【資料2-2】

－事務局より、公共施設整備検討会議からの報告書（意見）案【資料2-1】、新旧対比表【資料2-2】について説明。

－質疑・意見確認

(〇〇委員)

・本検討会議はどのタイミングで正式な解散となるのか。

(事務局)

・今年度をもって解散とする。

(〇〇委員)

・むずびには、引き続き意見反映の機会を頂けるようにすると記載されているが、本検討会議が解散した場合はどのように意見を確認するのか。

(事務局)

・本検討会議からの意見ではなく、参画頂いた各委員から引き続き意見を頂きたいと考えている。

(〇〇委員)

- ・ 検討会議の報告書は個人の意見を集約したものではなく、検討会議としての意見をまとめたものと認識しているがどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 表現が相応しくないと感じられてしまうのであれば、文言を修正する。

(〇〇委員)

- ・ かなり長い時間をかけて検討を進めてきた。そのため、今後の意見反映についても担保しておきたいと考え発言した。その都度集まるのではなく、行政に対しての意見反映ができる場があった方が良いのではないかと。副座長である向井部長の意見もお聞きしたい。

(向井副座長)

- ・ 検討会議としては今回で終わりとなるが、チェックする機能として何らかの場があればという意味だと捉えている。今後再び、本検討会議のような場が必要であると判断した場合には意見反映の機会を設けることを検討する。

(〇〇委員)

- ・ 報告書には引き続き意見反映の機会をいただきたいと記載されているため、是非そのような場が設置されることを願っている。

(炭谷座長)

- ・ 本検討会議は解散となるが、個人的に意見があれば市に伝える方法もある。また、何らかの会議の場が設けられた際には本検討会議の委員も参画することで、議論した内容が政策に反映されているのか、チェックができるような体制を行政にも考えて欲しい。

(〇〇委員)

- ・ 提案2：立地場所にて追記頂いたモンベルを含む船場公園の施設については、狭い公園の内部を切り割って使用することで公園の価値が下がってしまうのでは危惧している。施設が公園に立地しているという事は、公園と一体的に検討を進める必要があると思う。モンベルとの関わり方も次の会議体が組織された際には考える必要があると感じた。追記した文章について、他委員から意見があればお聞きしたい。また、事務局としてはどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 船場公園のみでなく周辺も含めたランドデザインを進めていこうと考えている。ちゃんもについては都市再生整備計画を提出しており、船場公園のみではなく、船場公園を含めた周辺整備を掲げている。先日報道のあったモンベルのみでなく、JR敷地の活用も含めて一体エリアとして検討を進めていきたい。また、改めて市民の意見も確認しなければならないと考えている。

(炭谷座長)

- ・ 道の駅自体は今後どのように変化していくかは分からないが、周辺エリアも含めて何らかの進展があった場合には、市として市民の意見も聞きながら検討を進めていただきたい。

ー炭谷座長より本検討会議の報告書として良いかを確認。本報告書を中西市長へ報告する。

ー小篠准教授より、本検討会議を通してのご助言やこれからの関わり方についてコメント。

- ・いろいろな要素を考慮しながら公共施設について考えることができた。
- ・報告書には機能イメージ図が含まれていないのはなぜか。文章だけでは本検討会議で議論した内容が伝わりにくいため、機能イメージ図も使用して市長へ報告するべきではないか。
- ・新しい公共施設に必要な機能（案）と機能イメージ図はあまりあっていない。これは、公共施設に当初は必要ないと考えられていた、広場やフリースペースを公共施設に必要な機能と機能を繋げる役目として追加したためである。当初は社会教育施設の場所や機能のみを話していたが、今までの社会教育施設とは違う考え方をしたと主張するべきである。

(炭谷座長)

- ・市長へ報告する際には、機能イメージ図を説明してから新しい公共施設に必要な機能（案）を伝えるようにする。

ー以下、小篠准教授のコメント

- ・〇〇委員から公園の中を切り売りする必要はないのではないかとの意見も出ていた。都市計画公園として土地利用をはめ込み型で考えているが、その枠を取り外して考えるべきではないかという話を行ってきた。最初から機能ありきではなく、何を機能として持ってくるべきなのかを考えなければならない。
- ・今回の立地ならこの機能が必要である、もしくは市民アンケートや他市町村の事例からメニューを切り替えていくという事が必要ではないか。また、今後も使用方法は変化していくことが想定されるからこそ、可変性の高い施設とするべきであるという話になっていた。これまでの検討結果を大事にしてほしい。
- ・本検討会議に参加した人達は、枠にとらわれない施設とすることが望ましいと考えているが、それ以外の人たちは以前の施設と同様のものを新しく整備すれば良いと考えている。それでは、また以前と同様の公共施設が出来上がってしまう。公園も都市計画に従ったものになってしまう。そうではなく、オープンエンドにするべきである。
- ・1年半の検討会議で得られた成果を次に活かすことができれば、良い方向へ進んでいく。
- ・実際に公共施設を利用するユーザーに説明をして、意見を聞きながら進めていくというプロセスが重要である。

ー各委員よりコメント

- ・〇〇委員：小篠先生の話聞いていく中で、留萌市は敷地があってそこに合うものを整備するという話を繰り返してきたのだと感じた。本検討会議での議論が全てではなく、報告書を幅広い市民に読んでもらうことが必要ではないか。そして、読んだ人達がどのような施設を思い描いているのかを聞くべきである。現在、ちゃいるもに関する署名活動も行われているが、市の担当部署は広報誌のみでの説明ではなく、検討経緯を様々な媒体で市民に説明する必要がある。笠井委員が意見を述べた通り、広い芝生の公園を狭めるのはあまり良くないと考えている。
- ・〇〇委員：公共施設の方向性を考える機会があって良かった。留萌市を好きで戻ってきたいと思えるような公共施設が整備されれば嬉しいと考えている。
- ・〇〇委員：本検討会議での議題や内容を引き継ぐ次の会議体等の中で、市民に意見を聞く機会を作り、時間をかけて進めていければ良いと思う。そのような機会があれば関わっていききたい。

- ・〇〇委員：各階層からの意見を聞くとのことだったので参加した。整備計画検討が進んでいき、運営に関する内容まで可能な限り関わっていきたい。
- ・〇〇委員：委員に応募した理由は、生まれた時と比較して人口が半分になっている中で、留萌がどのような方向に進んでいるのかを知りたかったためである。また、公共施設は一度整備すると長期間利用されるため、現在7歳の娘やその子供の世代も利用しやすい施設になってほしいと考えていた。子供を育てる世代として意見を伝える場を作っただけであれば再度参加したい。
- ・〇〇委員：都市環境部長という立場で参加していた。当初はグループワークの取りまとめ役だと考えていた。しかし、小篠先生の講演会をきっかけとして検討会議が変わった。JR跡地とは言っているが、現在は運行している。市長としては事前に準備することで廃線となった場合でもすぐに動けるように考えていると思う。コロナの影響もあり、回数も想定よりは少なくなり、視察も行えない状況となってしまった。具体的な検討が始まる際には再びこのような会を開催することになると考えている。その際には幅広い市民からの意見を頂ける機会があれば良いと思う。
- ・〇〇委員：教育部長としての立場で参加していた。委員の皆さんもそれぞれ考え方や意見が違うことが分かった。事例視察に行くと視察した施設が良いとの考えになるが、整備後に問題になるケースが多々ある。本検討会議の報告書の内容についても、整備後に反映されていないということにならないよう、活かしていただきたい。建物建設までには沢山の時間がかかると思う。今後市民の方を交えて議論する際には、本検討会議の委員に力添え頂けると良い方向に進んでいくのではないかと考えている。
- ・〇〇委員：本検討会議に出席することで公共施設に対する考え方が大きく変わった。公共施設ではなく、市民のための施設を整備してほしい。市長への報告書提出後が重要であり、今後この計画に市民が関わっていきたいと感じるようなアナウンスを期待している。ただ整備するのではなく、みんなで作るから価値があると考えている。
- ・向井副座長：1年半検討会議へ参加いただきありがとうございます。担当部署として、検討会議を設置し委員の公募をかけた。当初は委員が集まるかも心配だったが、多くの応募が集まり、公共施設建設に関する関心の高さに驚いた。検討会議では熱い思いも聞くことができた。今までの公共施設建設時には市民の意見を聞く場がなかったため、このような場が重要だと気付かされた。ちゃんもについても、このような場を持つべきだったと感じている。道の駅、庁舎、社会教育施設は担当部署が異なる。次年度は各部の部長が変わることが決まっているが、引き続き支えていきたいと考えている。本検討会議の委員の皆様にも引き続きご協力いただきたい。
- ・炭谷座長：当初は老朽化したから、新たな場所に公共施設を移すという話だと考えていた。しかし、検討会議を通して施設ありきではなく、利用者ありきで考えるべきだと気づくことができた。市民が自主的に動かしていくという流れができると良いと考えている。堀口委員からもコメントがあった通り、何世代も使っていき、時代によって運営の仕方も変わった場合でも使いやすい施設を検討していくべきである。また、委員だけではなく本検討会議で得られた考え方を市民に理解してもらう場が必要である。市民が主体的に物事を考えていくような市になれば素晴らしいと思う。本検討会議によって、希望が見えてきたと感じている。明日は市長へ熱い思いを伝えたいと思う。小篠先生をはじめ、会議運営に関わった各関係者

に感謝している。今後も関わる機会があれば引き続き関わっていききたい。皆様、長い間参加いただきありがとうございました。

5. その他

－特になし。

6. 閉会